

外国語学習成功者のインタビュー考察

那須 雅子

0. はじめに

本発表では、外国語学習者の学習履歴に関するインタビュー記録である「オーラルヒストリー」を分析し、日本人学習者にとって効果的な英語学習のあり方の特定を試みた。中学生から大学院生までの広い年齢層に対して実施したインタビューの蓄積データから、特に高度なレベルにまで達している外国語学習成功者の体験談や学習法を抽出して考察し、日本の小学校から中学、高校、大学までの一貫した英語教育の現状とその学習成功例を、実際の英語学習者の視点から再検討した。グローバル化に対応した英語教育改革実施計画が発表されるなど、英語教育の重要性が強く叫ばれる中、優れた英語力を身に付けるために本当に有効な学習法を特定することを目的とした。

1. 研究方法

本研究で用いた「オーラルヒストリー」の手法は、主に歴史分野において当時の関係者から直接話を聴き取り、記録としてまとめる研究手法として取り組まれてきたものである。この手法を援用した英語学習版オーラルヒストリーとは、学習履歴や環境について語ってもらったインタビュー内容を記録し、分析・考察をした研究である。この研究の利点は、大量のアンケート調査やテスト結果の数値を見る客観的なデータ分析では埋もれてしまいがちな実情を把握できること、あるいは機械的に処理されてしまう複雑な因果関係や、多面的な問題を深く掘り下げることができることである。さらに、小学校から中学、高校、大学（院）までという長期に渡る視点から英語学習の履歴やその成果を考察できる点も重要である。

2. インタビュー調査に関して

発表者は、平成23年3月～平成27年12月にわたり、対象者40人のインタビュー調査を実施した。その内訳は、日本人35人（社会人12人・大学生および大学院生18人・高専生1人・中学生4人）で、1年以上の長期英語圏滞在歴のない方が16人、1年以上の長期英語圏滞在歴のある方が19人である。日本人以外の対象者は5人で、アメリカ人（日本語学習・日本長期在住）、中国人（日本語学習・日本長期在住）タイ人（英語学習・英語圏長期滞在歴なし）、韓国人（日本語学習・日本滞在歴なし）ドイツ人（日本語学習・日本滞在歴2年）である。

今回は、日本の中学、高校の英語教育について考察を加えることを目的として、これらのインタビューデータから中学高校での学習体験について詳しく話している学習者6人を抽出し考察を行った。内訳は、中学生4人、高専生1人、大学生1人で、すべて長期海外滞在歴のない学習者である。

3. 考察と発見

次に、インタビュー対象者が効果があったと考えている学習法を抜粋して紹介した。中学生4人は、クラス活動の中で行われる「弾丸インプット」と呼ばれる徹底した語彙フレーズ習得、Graded Readersを毎月1冊読むというインプットが効果的であったと述べている。個々の証言では、「英文をノートに沢山書く」、「週末に7ページ

くらいが課題で、本気でやるときは20ページくらいワークや教科書の例文を書く」、「単語帳の例文や文の構造を考えながら写して書く」(Kさん)など、英文を繰り返して「書く」ことが強調された。また小学校から英語を塾で学んだYさんは、「単語を学んでCDを聴く」、「物語を中心に読んでCDを聴いてならって読み、声に出して読む」、「訳があって、日本語の意味は分かって読んでいく。難しい文法もその中で学ぶ」など、繰り返して聴くことが強調された。英文の意味は日本語で理解して聴いている点は注目に値する。

次に高専4年生Mさんの体験談では、塾で行った音読が英語力養成の基礎として強調された。

小6から中3まで週1回、通っていました。教材を音読しまくって英語に慣れるという感じでした。まず、CDのノーマルスピードで聴いて一通り意味を取ってからひたすら音読して暗記する。最後には、CDにシャドーイングして言えるようにしました。4年間やったおかげで、英文に対する抵抗は全然なくなったと思います。英語がずっと頭に入ってくるようになりました。

彼の場合には、意味の分かる英文を耳から聴いて声に出すという訓練が、その後の英語力の向上につながる基礎になったとのことである。また彼は文法が弱いことを高校1年生で文法書を活用して克服している。その際、基本例文は、繰り返して覚えたとのことだった。また分からない英文に関しては、辞書をきちんと引いて例文を見て調べ、正確に使うことを徹底していることも重要なこととして挙げられた。

大学生のMさん体験談では、語彙の大量習得が強調された。「中学校で文法を固めて、語彙習得に力を入れた。高校ではさらに語彙を蓄積し、多読をした」とのことである。大学の講義では、法学部において専門関連のテーマに関してライティングやプレゼンテーション、討論など英語によるアウトプットを活発に行っているが、高校までに身に付けた文法力・語彙力・読解力がその活動を支えていると考えられる。

4. 今後の課題

本発表では、日本の英語教育に関する現状方針を踏まえながら、実際の学習成功者の証言を考察した。平成25年12月には、文部科学省より小中高等学校を通じた英語教育改革を計画的に進めるための「英語教育改革実施計画」が公表された。その中で注目すべきは、中学校の「授業を英語で行うことを基本とする」、また、高等学校の「授業を英語で行うとともに、言語活動を高度化(発表、討論、交渉等)」するという内容である。中学校・高校の限られた授業時間で授業内容を英語で行うことによって、生徒は本当に高度化された英語活動を行うことができるようになるのであろうかという疑問と不安は拭いきれない。本研究では、音読、語彙習得、文法知識などを中心としたこれまで中学校・高校の通常授業の中で扱われていた基本的な活動が英語による「高度な言語活動」を支えていることが浮き彫りになった。これらの意味ある学習活動が授業外へ追いやられているような現状はしつかりと検証されるべきではないだろうか。中学校、高等学校の「授業を英語で行う」という実施計画が実践される際に、従来行われていた基礎力の養成が疎かにならないよう留意しておくことが重要であることを結論とした。

参考文献

- 大津由紀雄他（2013）『英語教育、迫り来る破綻』東京：ひつじ書房.
- 斎藤兆史（2000）『英語達人列伝』東京：中公新書.
- 白井恭弘（2004）『外国語学習に成功する人、しない人 第二言語習得論への招待』東京：岩波書店.
- 竹内理（2007）『「達人」の英語学習法』東京：草思社.
- 竹内理（2010[2003]）『より良い外国語学習法を求めて 外国語成功者の研究』東京：松柏社.
- 鳥飼久美子（2007）『通訳者と戦後日米外交』東京：みすず書房.
- トンプソン・ポール著・酒井順子訳（2002）『記憶から歴史へ オーラル・ヒストリーの世界』東京：青木書店.
- Plummer, K. (2001) *Documents of life 2: An invitation to a critical humanism*. London, Thousand Oaks, New Delhi: Sage.
- Nasu, M. (2015) *The Role of Literature in Foreign Language Learning*. Ed, Teranishi, M. et.al. *Literature and Language Learning in the EFL Classroom*. Basingstoke: Palgrave Macmillan.